

まちづくりにスポーツを使い倒そう

# LET'S USE SPORTS

スポーツによる「まちづくり」

事例集

令和4年3月1日時点版



スポーツ庁



スポーツ庁

まちづくりにスポーツを使い倒そう

## はじめに

みなさんは、「スポーツ」というと、一見まちづくりとは関係がないもの、と思われるのではないのでしょうか。しかし、改めて地域のスポーツ資源を見直し、積極的に活用することで、「スポーツ」は住民の健康増進、少子高齢化、過疎化、地域経済の衰退といった、今多くの地域が抱えるさまざまな社会課題を解決に導くポテンシャルを秘めています。また、まちづくりという観点では、散歩やゴミ拾いなど日常のあらゆる身体活動も広くスポーツと捉えることが可能です。

本書では、こうした「スポーツによるまちづくり」に既に取り組まれている自治体をご紹介します。

今後、こうした取組を推進しようと考えている自治体の皆様が本書を参考にされ、首長部局・企画部局を中心に、スポーツ部局、観光部局、健康・福祉部局といった関係部局が一体となって「スポーツによるまちづくり」に取り組んでいただけると幸いです。

# INDEX 目次

- P1 はじめに
- P2 目次
- P3 目次(人口規模別)
- P4 目次(目的別)

## P5 本書について

- P6 政府が推進するスポーツ・健康まちづくりとは
- P7 本書の役割・活用方法
- P8 モデル自治体設定の考え方

## P9 アウター施策に

### 特徴のある取組例

- P10-11 北海道名寄市
- P12-13 茨城県笠間市
- P14-15 長野県野沢温泉村
- P16-17 京都府和束町
- P18-19 山口県長門市
- P20-21 鹿児島県鹿屋市
- P22-23 コラム

全国のプロアマスポーツチームを地域創生に活用しよう!!

## P24-25 コラム

アクティブシティのつくり方

## P27 インナー施策に特徴のある取組例

- P28-29 北海道
- P30-31 宮城県角田市
- P32-33 神奈川県川崎市
- P34-35 静岡県沼津市
- P36-37 滋賀県米原市
- P38-39 滋賀県愛荘町
- P40-41 岡山県美作市
- P42-43 高知県越知町
- P44-45 徳島県海陽町
- P46-47 福岡県福岡市
- P48-49 沖縄県
- P50-51 コラム

スポーツを活用したまちづくりの推進に向けて

エビデンスにもとづくスポーツ・健康まちづくり

## P55 ハード施策に特徴のある取組例

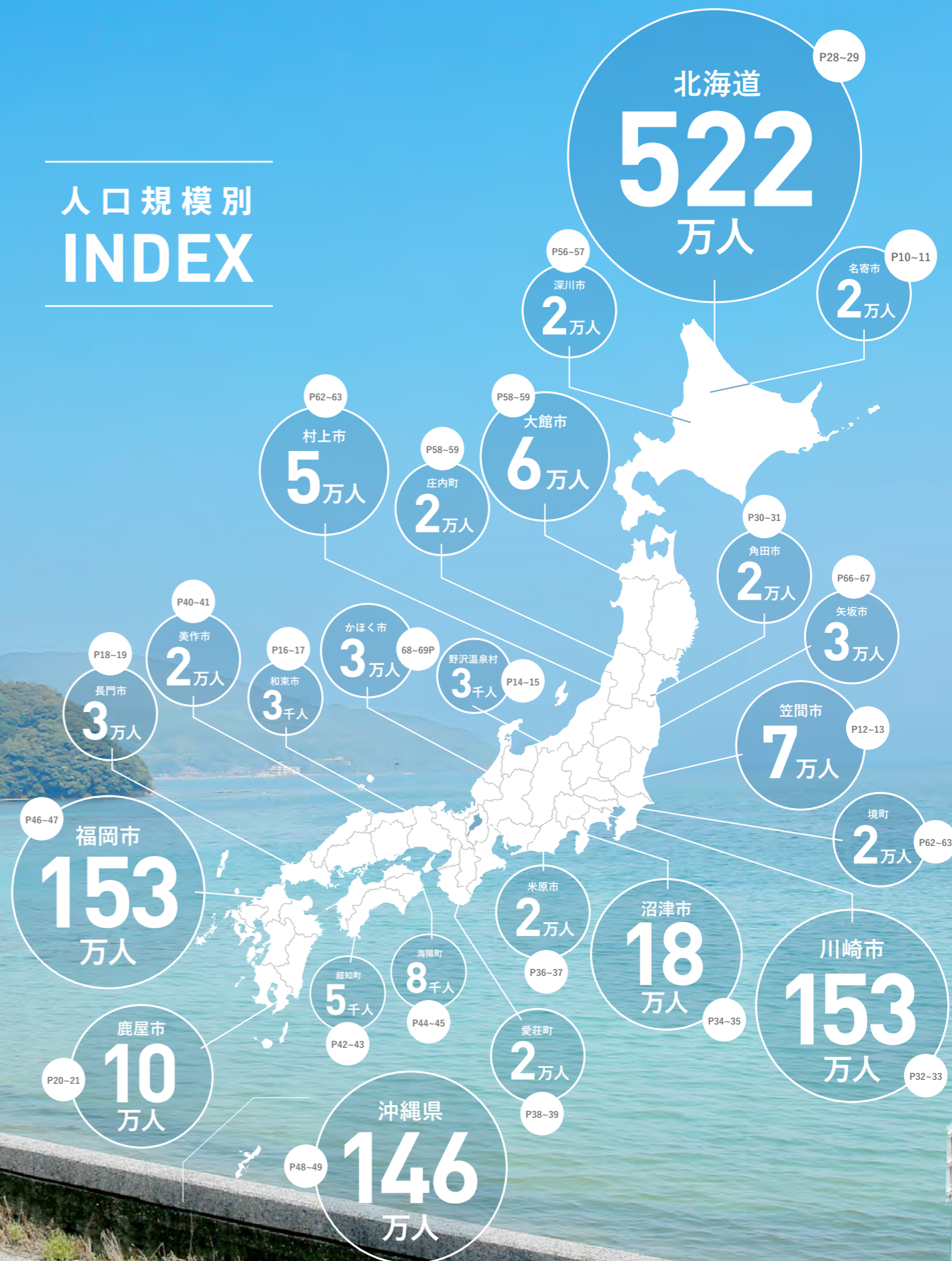
- P56-57 北海道深川市
- P58-59 秋田県大館市
- P60-61 山形県庄内町
- P62-63 新潟県村上市
- P64-65 茨城県境町
- P66-67 栃木県矢板市
- P68-69 石川県かほく市
- P70-71 コラム

自然と体が動く「楽しいまち」実現に向けたハードウェア・マネジメント

## P72-74 今後期待されるスポーツの使い方

- P75-76 関連施策一覧
- P77 スポーツ庁長官表彰の創設
- P78 謝辞

# 人口規模別 INDEX



# LET'S USE SPORTS

# INDEX

目的別

## A

既存ストックの利活用により、  
施設総量を増やさず、  
体育施設や関連施設への  
転用を図りたい

北海道深川市

石川県かほく市

## B

人口減少社会において、  
優れた人的リソースを確保したい

北海道

茨城県境町

岡山県美作市

徳島県海陽町

## D

地域の産業振興や  
雇用創出にスポーツのを活用したい

宮城県角田市

栃木県矢板市

新潟県村上市

長野県野沢温泉村

## C

集客力のある  
体育施設があり、  
経済効果に結び付けたい

北海道名寄市

山形県庄内町

## E

スポーツ環境の整備を  
都市基盤や社会資本の  
高度化につなげたい

秋田県大館市

京都府和束町

山口県長門市

## G

地域住民のスポーツの習慣化や  
健康増進に取り組みたい

静岡県沼津市

滋賀県愛荘町

高知県越知町

福岡県福岡市

## F

文化として根付く  
スポーツを活かしシビックプライドの  
醸成を図りたい地域

神奈川県川崎市

滋賀県米原市

沖縄県沖縄市

## H

スポーツ関連企業・大学等の  
ノウハウをスポーツツーリズムや  
地域スポーツに活かしたい

茨城県笠間市

鹿児島県鹿屋市

# About this book

## 本書について

# 政府が推進する スポーツ・健康まちづくりとは

スポーツ庁が創設された2015年以降、スポーツによる地域振興施策として主に取り組んできたのは、「スポーツツーリズム<sup>1</sup>」でした。スポーツと観光を融合したこの取組は、地方誘客による交流人口の拡大、幅広い関連産業の活性化や関連消費の拡大など、地域振興に大きく寄与するポテンシャルがあるとされ、既に多くの地域で推進組織「地域スポーツコミッション<sup>2</sup>」を中心に取組が進められています。

こうしたスポーツによる地域振興施策≒スポーツツーリズムという流れが大きく変わったのが、2019年に政府決定された第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略3です。これは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等を起爆剤に、「スポーツ・レガシー」として、本格的にスポーツを活用した特色ある「まちづくり」の全国的なムーブメント（政府では「スポーツ・健康まちづくり」と呼称）を創出していこうというものです。

そして、「スポーツ・健康まちづくり」の柱として、

- ① 経済・社会の活性化（スポーツツーリズム、プロスポーツの活用など）に向けたいわゆるアウトター施策
- ② 健康増進・心身形成・病気予防（健康スポーツ教室、障がい者スポーツの推進など）に向けたいわゆるインナー施策
- ③ 「楽しいまち」への環境整備（ウォークアブルシティ・自転車の活用など）に向けたいわゆるハード施策の3つの視点が見られました。

さらに、「スポーツ・健康まちづくり」に取り組む上で忘れてはならないのが、「総合性、継続性」の観点です。前述のアウトター・インナー・ハードの3つの視点は、あくまでも総合戦略で示された「まちづくり」における切り口であって、実際の「まちづくり」においては、これらを明確に切り分けて、担当部局の既存のタテ枠の中で取り組むのではなく、スポーツ部局や観光部局、健康・福祉部局などがタテを活かしつつヨコに連携して総合的かつ継続的に取り組むことが求められるからです。極端に言えば、「スポーツ」から「まちづくり」にアプローチするのではなく、「まちづくり」から「スポーツ」にアプローチしていく、というくらいの「発想の転換」が重要だと思っています。そこから、「まちづくり」の実現に向けて、「スポーツ」を最大限活用する発想が出てくるのではないのでしょうか。



## スポーツ・健康まちづくりの概念

1. 「スポーツ」イベントへの参加や観戦を目的として地域を訪れたり、地域資源（アウトドアなど）と、「スポーツ」が融合した観光を楽しんだりするなど、スポーツを活用した「ツーリズム」のスタイル。
2. 地方公共団体、スポーツ団体、民間企業等が一体となり、スポーツによるまちづくり・地域活性化を推進していく組織の総称。

# 本書の役割・活用方法

本書は、いかにして「まちづくり」に「スポーツ」を活用していくか、という観点の下、地域が抱えるさまざまな社会課題の解決に向けて、スポーツを積極的に活用している自治体の取組（スポーツによるまちづくり）を、事例集としてまとめました。あくまでも、「まちづくり」の事例集であり、「マイナー競技の普及啓発の方法」「国際競技力向上の方法」「国民のスポーツ実施率向上の方法」といった、「スポーツ自体の振興」に関する取組を紹介するものではありません。

したがって、本書を手にとって読んでいただきたいターゲットとしては、自治体の首長部局・企画部局を中心に、スポーツ部局、観光部局、健康・福祉部局といった、まちづくり関係部局の皆様を想定しています。

今一度、地域の「スポーツ資源」を見直され、「まちづくり、地方創生にスポーツをどう活用するか？ どう使い倒せるか？」という発想の転換を促すきっかけになることを目的に本書を作成しました。

さらには、せっかくの発想を画餅に終わらせることなく、実践・定着につなげていくための参考書として、地域住民や民間企業等、庁内外の様々な主体を巻き込んで取り組まれている自治体も紹介しています。このように官民連携でまちづくりに取り組むことは容易ではありませんが、まずは本書に目を通していただき、気になった事例がありましたら、右記QRコードから詳細レポートもご覧いただき、貴自治体の今後のまちづくりに、是非ご活用ください。



# モデル自治体選定の考え方

本書では、スポーツによるまちづくりに取り組む自治体を「モデル自治体」として選定し取組を紹介しています。

モデル自治体の選定にあたっては、今後、「スポーツ・レガシー」として、「スポーツによるまちづくり」に取り組もうとされている自治体の皆様の参考となるよう、スポーツを活用したまちづくり、とりわけ地方創生の文脈に則って取り組まれていると思われる自治体を対象に選定しました。

具体的には、1つの指標として、地域再生法に基づく地域再生計画やそれに準ずるまちづくり計画に位置付けられた事業であり、事業レベルでは一定程度完了している取組を対象としています。そのため、地域再生制度が始まった平成17年以降、さらに、まち・ひと・しごと創生法が施行された平成26年以降の取組が多くなっていますが、それ以前に行われてきた「スポーツによるまちづくり」に合致する取組や、民間主導で行政計画に基づかない取組、近年新しく出てきた技術やスキームを活用した今後の展開が期待される取組等については、コラムとして補完していますので、そちらも是非ご参考ください。

さらに、事例集としてなるべく多くの自治体の参考となるように、自治体規模、エリア、保有スポーツ関連資源、抱える課題等に基づき様々な自治体を選定しました。このため、スポーツによるまちづくりの優良事例を選定し、掲載しているわけではありません。

同様に汎用性や再現性に重きを置いた選定を意識し、高度なすばらしい事例だけでなく、「あ、これはうちの地域でも真似できるかもしれない」という事例も集めています。

3. まちづくりという大局的な視点では「完了」はしてなくても、個別具体的な取組として一旦の区切りがついていれば対象となるものとした



Outer

# Policy

アウター施策に  
特徴のある取組例

## 宿泊事業者の連携による

## スポーツコンベンションに係る経済効果の流出抑制

### 北海道 名寄市

人口規模:2万人  
地勢条件:豪雪、寒冷  
関連資源:ジャンプ台、所縁のある  
オリンピック、もち米



#### アウター施策

##### 主なターゲット

スキージャンプ  
(ジュニア世代)、  
カーリング

こんな自治体に  
オススメ!

集客力のある体育施設  
はあるものの、経済効果  
に結びついていない地域

#### 取組の概要

ウィンタースポーツの合宿・大会誘致の展開により交流人口を拡大を図り地域経済の活性化を進めてきた。大規模大会時における市内宿泊事業者の受入の調整による市外への利益流出の抑制や、名寄産農産物によるスポーツフード開発等の地域資源を利活用したスポーツ産業化を目指し地域の稼ぐ力を向上させてきた。



#### 数値目標と達成度

合宿受入人数 **3,485人**(H27年)→**7,297人**(R2年)

#### 効果・成果

合宿誘致による  
経済波及効果 **8,000千円**(H28年)→**11,000千円**(R2年)

#### 規模・財源

地方創生推進交付金を活用しながらコミッション負担金として約15,000千円(うち市負担金約14,000千円)、コミッション運営費約2,700千円(全て市単費)、地域経済活性化事業費約2,500千円(うち市負担金約1,200千円)を投じ、約71,000千円の経済効果を創出している。今後はコミッションの事業収入を増加させ、市の負担金削減を目指す。

#### 取組のPOINT

KPIのフォローアップにより人数の増加に比べて経済効果の増加が相関していないことから、消費額の増加につなげるための視点にシフトチェンジし、好転した点



地域の飲食店への波及の誘導



地域住民のスポーツ機運醸成のための街なか運動会

#### 担当者に聞いた

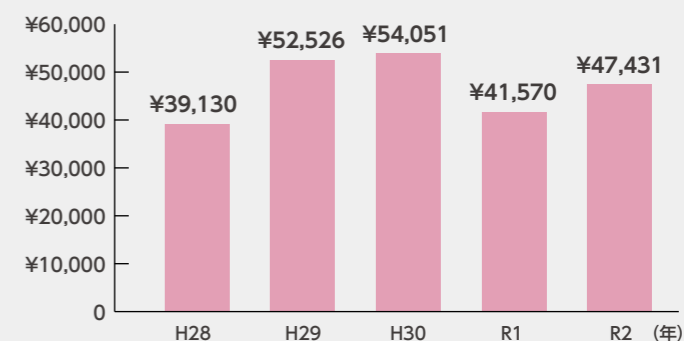
#### 成果の要因

取組の広告塔としてのオリンピック(阿部雅司氏)の存在。インナーへの対象拡大の舵切。目に見やすい直接効果、波及効果の提示(企業協賛等の獲得に寄与)

#### 失敗談・苦慮した点

直接関わらない市民にとってスポーツ行政への理解が広がらないことに苦慮したものの、対象範囲をインナーにも広げ、市民も巻き込みスポーツ機運を高めることで対応した。サイクリングや地域運動会のフィールドを街中やオープンスペースの活用によりスポーツの楽しそうな様子が無関心層の目の留まるよう意識した。

#### 宿泊業における消費額



#### 庁内体制

主管課:スポーツ合宿推進課  
連携課:産業振興課  
主担当者:主幹

#### 庁外体制

Nスポーツコミッション



Nスポーツコミッション  
黒井 事務局長

スポーツや観光セクションからの登用ではなく、元々はワークショップデザインやファシリテーターを生業としており、広くまちづくりに関わってきた経験やコーディネート力が活かしている。

# アーバンスポーツ施設の活用による

## 観光の季節偏重の平準化

### 茨城県 笠間市

人口規模:7万人  
地勢条件:丘陵地帯、太平洋型気候  
関連資源:笠間焼



#### アウトター施策

##### 主なターゲット

スケートボードや  
BMX競技者  
初心者～国際レベル

こんな自治体に  
オススメ!

スポーツ関連企業・大学  
等のノウハウをスポーツ  
ツーリズムや地域スポー  
ツに活かしたい地域

#### 取組の概要

伝統工芸品「笠間焼」で知られ、高齢者に人気の観光資源が多くあるものの若者の集客が課題で、県営公園の空きスペースを活用し、スポーツを使った新たな観光誘致策として、国内最大級の4600平方メートルのスケート広場を造成。世界的なスケボーの聖地として発展する仕掛けを進めるとともに、既存観光資源との組み合わせによる連携策も推し進める。



#### 数値目標

##### 月別観光客数の平準化

1月（繁忙期）と9月（閑散期）の最大差905,900人（R1）の圧縮を目指す

#### 効果・成果

##### 施設満足度

供用開始初年度で根拠データに乏しいものの、利用実態や口コミから高い満足度が示されている

#### 規模・財源

パーク造成にかかる総事業費約7億4000万円を県と市で負担、ネーミングライツで1,000万円/10年の契約を獲得

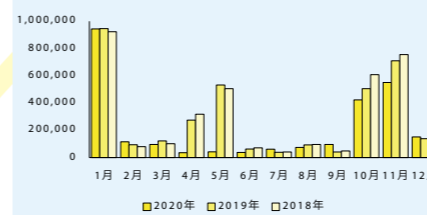
#### 取組のPOINT

「スケートボードの聖地化」のみならず、専門業者との協働によって得た振興のノウハウを活かし、ゴルフや障がい者スポーツ等への横展開を図っていくこととしている。



益子焼等資源と組み合わせたモニターツアーを企画

月別観光入込客数



イベントによる観光入込が多く限定的なタイミングに偏重している

#### 担当者に聞いた

#### 成果の要因

森に囲まれた雄大な自然環境の中、開放感と臨場感あふれるロケーションを活かし、同伴の家族も楽しく見守れる環境としたこと、スケートボードやBMXの初級者から上級者まで楽しめる多様性に富んだセクション構成やレンタル品完備、雨天時や夜間も楽しめるような設備の完備等により、幅広い利用者層を取り込める施設とした。

#### 失敗談・苦慮した点

公設民営事業へのムラサキスポーツ社の参加は同社にとっても初の経験でゼロからの対応には苦労があった。自治体が所有する公共空間であることから公園管理面との兼ね合いや大会運営のあり方など、クリアすべき点は多々あったが、市のアーバンスポーツに対する前向きな姿勢もあり、結果的に大きなノウハウを得ることができた。

#### 庁内体制

- スポーツ振興課
- 観光課
- 健康増進課
- 企画政策課

#### 庁外体制

株式会社ムラサキスポーツ  
ムラサキパーク東京、ムラサキパーク大阪岸和田等全国での施設運営やイベントプロデュースの豊富な実績を有するムラサキスポーツが施設の指定管理者として運営を担うだけでなく、スケートパークのデザインも監修。スケートボード初代日本代表監督でもあるムラサキスポーツ西川隆の豊富な経験を全て注力し、世界中のスケートパークの良さを凝縮したスケートパークとなっている。





# 村の通年雇用、定住のため、 地域資源を活かした取組の展開

## 長野県 野沢温泉村

人口規模：3千人  
 地勢条件：豪雪、山谷形で起伏が多い地形  
 関連資源：温泉、野沢菜、スキー場



### アウトター施策

#### 主なターゲット

アウトドア愛好家、  
マウンテンバイク競技者

こんな自治体に  
オススメ！  
地域の産業振興や雇用  
創出にスポーツを活用し  
たい地域

### 取組の概要

スキー産業を根幹にまちが発展してきたことから、冬季産業は盤石であり、冬季には250人のアルバイトが滞在するものの、夏季の雇用維持等で産業としての課題を抱えていることから、通年での展開、産業の確立を目指して、スキー場や周辺の自然環境を活かしたグリーンシーズンの誘客コンテンツの造成に取り組んでいる。



### 数値目標と達成度

第三次産業従事者数 1,355人 (H27) → 1,325人 (R2)

### 効果・成果

夏季(4~9月)観光客数 1,494人 (H30年) → 1,536人 (R1年)

### 規模・財源

村予算に、特別会計を用意しており、その中で、スキー場の利益を貯蓄し、整備等を行っている。株式会社野沢温泉を設立し、それまで村営であったスキー場運営の民営化を進めて以降、投資計画に基づいて、事業・整備を推進し、村民一体となった総合施策を実施。2010年(平成22年)に過疎地域指定を受けて、過疎債を活用したまちづくりも進めている。

### 取組のPOINT

地域住民の産業連関に対する意識が高く、村全体で観光振興の重要さを理解している



地域の婦人会の協力でグリーンシーズンのスキー場を花で彩る



ナイトゴンドラツアー等  
夏季コンテンツ開発を推進

### 担当者に聞いた

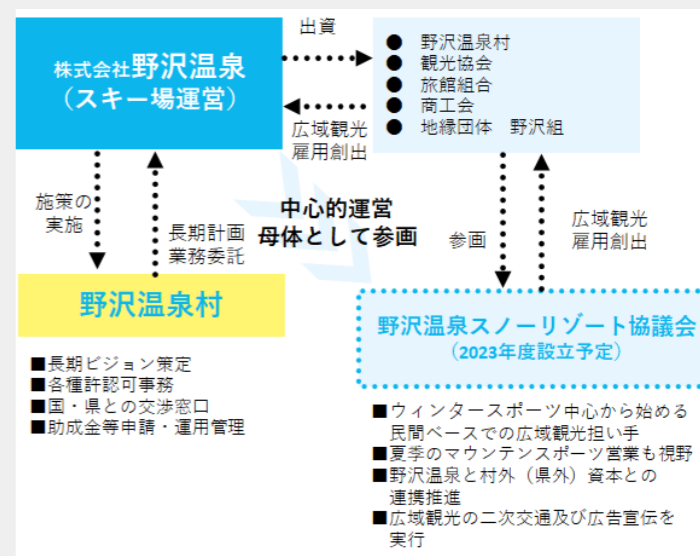
#### 成果の要因

幼保小中一貫教育・高校連携教育を進めており、国内において早期にスキーが伝来してきた地域性を活かし教育課程特例校の認可を受けたスキーの楽しさを味わう「スキー科の学習」を実施していることで、スキーが村の基幹産業であり、スキーを核とした観光振興＝地域振興である、という意識が、宿泊事業者等直接的な観光関連事業者以外にも広く村民に浸透していることから、村民一体となって取組みを進めることができています。

#### 失敗談・苦慮した点

1年を通じて雇用を創出、維持するための事業の展開は堅調であるものの、移住希望者への住居の提供に苦慮している。空き家等活用可能な不動産の賦存数が少なく、村営住宅も満室の状況であることから、民間開発の誘発等の対応を必要としている。

#### 体制



# スポーツ環境の整備を起点とした 景観保護や社会資本整備への展開

## 京都府 和束町

人口規模: 3千人  
地勢条件: 山間地域  
関連資源: 和束茶、古墳



### アウトナー施策

主なターゲット

サイクリングツーリスト

こんな自治体に  
オススメ!

スポーツ環境の整備を都  
市基盤や社会資本の高  
度化につなげたい地域

### 取組の概要

日本遺産認定を契機にサイクリングやマウンテンバイクの取組みの推進に着手。ルート冊子発行や電動レンタサイクルを展開し、自然景観や茶畑等の産業景観を体感しながら地域の回遊を促しており、これらのコンテンツをより安全、快適に楽しんでもらうために道の拡張や舗装等、町民の日常生活を豊かにするインフラ整備等のまちづくりにも発展している。



### 数値目標と達成度

観光客数 **38,876**人(H23年) → **94,463**人(H28年)

### 効果・成果

景観保護

茶畑の農家数は減少傾向も  
畑景観や産業としては維持  
できている

### 規模・財源

地方創生推進交付金を活用。店舗のラックやカフェ等は、農家や事業者が自主財源で事業を展開。

### 取組のPOINT

地域独自の自然環境を最大限体感することができる取組(ウォーキング・サイクリング・マウンテンバイク)を展開。その取組によって、より良くしようというまちづくり(景観保護、景観を活かした観光産業等)へ好循環が生まれつつある。



販わいをみせる  
マウンテンバイクイベント



収益UPのために各茶園のカフェ  
ではサイクルラックを完備

### 担当者に聞いた

#### 成果の要因

和束町の自然環境を多目的に活用し、町民の誇りを醸成していくことが目的であることから、自治体だけでは成し遂げることができず、町民や農家、事業者との協働・連携した取組を進めてきたことが成果につながっている。そのため、住民と共にどのように進めていけばよいか、一緒に取り組んでいくことができるか等の意見をきちんと把握し、取組を推進している。

#### 失敗談・苦慮した点

最初は、景観を見てもらうだけであり、地域にお金が入らなかった。そのため、各茶園でカフェ等を併設するようになり、おしゃれなスイーツ等も商品開発し、お客様をおもてなしするなど、茶畑の景観の魅力を活かした取組が展開されている。

#### 庁内体制

地域力推進課  
福祉課

#### 庁外体制

キーマンとなる移住者  
地域力推進協議会  
京都府立大学  
ANA

## 地域レジャー資源をつなぐコース設定と

## コース沿線地域の環境の保全

### 山口県 長門市

人口規模:3万人  
地勢条件:海岸、温暖  
関連資源:日本海、棚田、温泉



#### アウトナー施策

##### 主なターゲット

環境意識の高い  
アクティブシニア層

こんな自治体に  
オススメ!

スポーツ環境の整備を都  
市基盤や社会資本の高  
度化につなげたい地域

#### 取組の概要

地域資源である日本海の美しい景観が漂着ゴミにより美観が損なわれている地域課題に対し、当初は地域住民がビーチクリーン活動を展開していたものの、地区の高齢化率が50%を超える状況から次第に地区住民だけでは実施が困難になったことを受け、インターネット等で域外への参加を呼びかけ、当該エリアでシーカヤックを楽しむツーリスト等を中心に全国から800人規模を動員しビーチクリーンイベントを実施するまでに至った。



#### 数値目標と達成度

##### 観光客数

1,151,732人(H26年)  
→2,538,014人(H30年)

##### 効果・成果

##### 環境保全活動への参加者数

430人(H24年)→800人(H29年)

#### 規模・財源

ビーチクリーンは民間の任意団体が主導。  
棚田保全是、企業版ふるさと納税を活用し、  
コースの路面整備やイベント運営スタッフの配置等を進めている。

#### 取組のPOINT

- ①環境保全等SDGs的視点を盛り込んだスポーツツーリズムの展開
- ②トレッキングや自転車競技での同様の環境保全寄与型のスポーツツーリズム展開している



ビーチクリーンの様子



カヤックを通じた海洋資源保全の他マラソンや自転車を通じた棚田景観の保全にも展開する

#### 担当者に聞いた

#### 成果の要因

本市の有するスポーツ資源と親和性の高いプロジェクトを展開するモンベル社を巻き込むことで、モンベル社が全国に抱える100万人超えの会員に対し、アプローチすることができ、効果的な誘客が図れている。

海・里・山の自然環境のつながりに思いを馳せて、カヤック・自転車・登山という人力だけで海から山頂を目指す環境スポーツイベント「シートゥーサミット」への参加等も本取組の知名度を向上させるために寄与している。



#### 失敗談・苦慮した点

海でのカヤック、内陸でのマラソンやサイクリング、温泉等既存観光資源などエリア内の素材・資源の連携による相乗効果を狙った取組みも今後必要になってくる。

#### 庁内体制

観光政策課  
産業戦略課  
健康増進課  
教育委員会生涯学習・文化財課

#### 庁外体制

モンベル  
株式会社百姓庵  
母なる海を守る会

# 体育大学との連携によるトップアスリート ターゲットとした合宿誘致

## 鹿児島県 鹿屋市

人口規模:10万人  
地勢条件:半島、産地、平野  
関連資源:体育大学、  
通年的に温暖な気候



こんな自治体に  
オススメ!

スポーツ関連企業・大学  
等のノウハウをスポーツ  
ツーリズムや地域スポー  
ツに活かしたい地域

### アウトター施策

主なターゲット

プロ、トップアスリート

### 取組の概要

市内で合宿を行うトップアスリートに対し、送迎や宿泊の支援、体育大学のコネクションを活かした練習相手の手配、体育大学の先端設備を活かしたパフォーマンス測定等、高品質な合宿サポートサービスを展開。誘致したトップアスリートが地域のスポーツ教室のゲストコーチになる等、地域への還元も行っている。



### 数値目標と達成度

分析  
トレーニング  
利用者

101人(H30年)→21人(R2年)

### 効果・成果

合宿誘致による  
経済波及効果

約230百万円(R1年)

### 規模・財源

トップアスリート等合宿滞在サポート事業のうち、鹿屋体育大学スポーツパフォーマンス研究センターと連携した各種測定分析トレーニング助言事業は、年間約2,000千円の委託費を計上。

### 取組のPOINT

先端技術を活かしたターゲット  
ングがポイント。  
実証や研究のフィールドを探し  
ている若手研究者は多いため、  
必ずしも地域に体育大学がない  
と真似できない取組みではな  
い。



プロサイクリングチーム「マトリックスパワータグ」が市内を拠点に活動するプロサイクリングチーム「CIEL BLEU KANOYA」と合同トレーニング



合宿に訪れたプロ選手による  
スポーツ教室の開催

### 担当者に聞いた

#### 成果の要因

スポーツコミッションが設立後5年程度、組織の存在意義や役割が不明瞭であったため、ビジョンや取組のターゲットの明確化(トップアスリート誘致の重点化)を行い事業の再構築に取り組んだことで好転した。

地域に体育大学やプロスポーツチーム(セシルブルー)等高い水準のチームがあることで、合同練習や練習試合の相手を差配できることが、大きな要因のひとつである。

#### 失敗談・苦慮した点

市として合宿誘致に力を入れていることが市民に伝わっておらず、地域としてのホスピタリティに向上の余地があることから、誘致アスリートによるスポーツ教室やサイン会等地域活動への還元で、市民の関心を高めていく。

#### 庁内体制

- 市民スポーツ課
- 地域活力推進課
- ふるさとPR課
- 健康増進課

#### 庁外体制

- かのやスポーツコミッション
- 鹿屋体育大学

# 全国のプロアマスポーツチームを地域創生に活用しよう!!

/八田茂(株式会社ジャパンアスリートキャリアサポートセンター 代表取締役社長)

## 1 はじめに

Jリーグ設立1992年から数えて30年、Bリーグ設立から7年経過するが、全国の一部の地域を除いては、まだまだプロスポーツで豊かな地域文化が醸成出来ていない現状だ。コロナ禍の逆風もあり、いわんやアマチュアのスポーツチームの多くは、地域貢献活動までは手が回らず、地域と一体となったスポーツ健康街づくりの取り組みは全国には道半ばの状況だ。要因は様々あるが、プロアマチームを活用する地域側の観点に立てば、連携や活用方法にもまだまだ難があると思われる。

本稿では、主たる読者である地方自治体関係者の皆様に、各地のプロアマチーム(主に球技)の地域創生における活用方法についての視点を提供したい。

## 2 全国都道府県別プロアマチーム一覧

### 日本トップリーグ連携機構 加盟チーム (2021年5月31日現在)

- Vリーグ バレーボールVリーグ
- Bリーグ ジャパン・プロフェッショナルバスケットボールリーグ
- Wリーグ バスケットボール女子日本リーグ
- JHL 日本ハンドボールリーグ
- ラグビー ジャパンラグビートップリーグ
- Iホッケー アジアリーグアイスホッケー
- 独立リーグ
- HJL ホッケージャパンリーグ
- JSL 日本女子ソフトボールリーグ
- Fリーグ 日本フットサルリーグ
- Xリーグ アメリカンフットボールXリーグ
- Jリーグ 日本プロサッカーリーグ
- WEリーグ 日本女子プロサッカーリーグ

<b>北海道・東北 22チーム</b> 北海道 13チーム ●ヴォレアス北海道 ●サフィール北海道 ●レパン北海道 ▲ひがし北海道クレインズ ●王子イーグルス ●エスポラーダ北海道 ●北海道コンサドーレ札幌 ●富良野ブルーリッジ ●すなわがリバーズ ●滝川ブルーインウィズ ●美瑛ブラックタイガーズ ●土別サムライブレイズ ●石狩レッドフェニックス 青森県 3チーム ●青森ワッツ ●東北フリーブレイズ ●ヴァンラーレ八戸 岩手県 1チーム ●いわてグルージャ盛岡 宮城県 4チーム ●仙台89ERS ●トヨタ自動車東日本 ●ベガルタ仙台 ●マイナビ仙台レディース 秋田県 2チーム ●秋田ノーザンハピネッツ ●ブラウブリッツ秋田 山形県 3チーム ●プレスステージ・インターナショナルアランマーレ ●山形ワイガーンズ ●モンテディオ山形 福島県 3チーム ●福島ファイヤーボンズ ●福島ユナイテッドFC ●福島レッドホープス	<b>関東 103チーム</b> 茨城県 8チーム ●つくばユナイテッドSunGAIA ●日立リヴァルレ ●茨城ロボッツ ●日立ハイテクカーゴーズ ●IBM BIG BLUE ●鹿島アントラーズ ●水戸ホーリーホック ●茨城アストロプラネッツ 栃木県 7チーム ●宇都宮ブレックス ●H.C.栃木日光アイスバックス ●栃木SC ●LIEBE栃木 ●グラクノスマスクラインOrangeUnited ●HondaReverta ●栃木ゴールデンブレーブス 群馬県 8チーム ●パナソニックワイルドナイツ ●サスバクサツ群馬 ●群馬銀行グリーンウイングス ●群馬クレインサンダーズ ●ビックカメラ高崎BEEQUEEN ●太陽誘電Vルフィーユ ●ベヤング ●群馬ダイヤモンドペガサス 埼玉県 15チーム ●埼玉アザレア ●埼玉上尾メディックス ●越谷アルファーズ ●大崎電気 ●駿河台大学 ●ALDER飯能 ●駿河台大学LADYBIRDS ●戸田中央総合病院 メディックス ●BULLSフットボールクラブ ●浦和レッズ ●大宮アルディージャ	<b>千葉県 11チーム</b> ●千葉エンゼルクロス ●千葉ZELVA ●千葉ジェッツ ●ENEOSサンフラワーズ ●NECグリーンロケッツ ●クボタスピアーズ ●バルドラール浦安 ●オービックシーガルズ ●柏レイソル ●ジェフユナイテッド千葉 ●ジェフユナイテッド市原・千葉レディース 東京都 36チーム ●FC東京 ●警視庁フォートファイターズ ●東京ヴェルディ ●トヨタモビリティ東京スパークル ●NECレッドロケッツ ●GS S東京サンビームズ ●アルビルク東京 ●サンロッカーズ渋谷 ●アースフレンズ東京Z ●東京羽田ウィッキーズ ●ジュークスター東京 ●NTTコミュニケーションズシャイニングアークス ●キャノンイーグルス ●サントリーサンゴリアス ●東芝ブレイブルーパス ●リコーブレッツラムズ ●日野レッドドルフィンズ ●東京農業大学 ●法政大学 ●フリース東京 ●東京ヴェルディポニーチーム ●フウガドルすみだ ●立川・府中アスレティックFC ●ベスカドラー田 ●しながわシティ ●オール三菱ライオンズ ●警視庁イーグルス ●LIXIL DEERS ●東京ガスクリエーターズ ●PentaOceanハイレーツ ●ブルサイズ東京 ●電通キャタビラース ●FC東京 ●東京ヴェルディ ●FC町田ゼルビア ●日テレ・東京ヴェルディベレーザ	<b>新潟県 5チーム</b> ●新潟アルビレックスBB ●新潟アルビレックスBBラビッツ ●アルビレックス新潟 ●アルビレックス新潟レディース ●新潟アルビレックス・ベースボール・リーグ 富山県 7チーム ●KUROBEアクアフェアリーズ ●富山グラウジーズ ●プレスステージインターナショナルアランマーレ ●小矢部RED OX ●YKK ●カターレ富山 ●富山GRNサンダーバース 石川県 5チーム ●P F Uブルーキャッツ ●北國銀行 ●ヴィンセドール白山 ●ツエーゲン金沢 ●石川ミリオンスターズ 福井県 4チーム ●北陸電力 ●福井工業大学 ●ヴェルコススタ福井 ●福井ネクサスエレファンツ 山梨県 4チーム ●山梨クィーンビーズ ●山梨学院 OCTOBER EAGLES	<b>長野県 10チーム</b> ●山梨学院 CROWNING GLORIES ●ヴァンフォーレ甲府 ●V C長野トライデンツ ●長野GaRons ●ルードインホテルズプリミアントアリーズ ●信州プレイングウォリアーズ ●東海電機工業 ●ポアルース長野 ●松本山雅FC ●A C長野パルセイロ ●A C長野パルセイロ・レディース ●信濃グランセローズ 岐阜県 6チーム ●J Aぎふりオーナ ●飛騨高山ブラックスブルズ岐阜 ●岐阜朝日クラブ(BLUEDEVILS) ●大垣ミナモト ●FC岐阜 静岡県 11チーム ●東レアローズ ●ブルズ浜松 ●シャノン化粧品シャノンVマジック ●ヤマハ発動機フジビロ ●NECフラットホームズRedFalcons ●静岡 ●アグリミーナ浜松 ●ジュビロ磐田 ●清水エスパルス ●藤枝MYFC ●アスルクラロ沼津 愛知県 31チーム ●ウルブズ名古屋 ●ジェイテクトSTINGS ●大同特殊鋼レッドスター ●トヨタ自動車サンホークス ●アイシンテイルマール ●デンソーエアリービーズ ●トヨタ車体クインシーズ ●シーホース三河 ●名古屋ダイヤモンドドルフィンズ ●ファイティングイーグルス名古屋 ●三菱ネオフェニックス ●デンソーアイリス ●トヨタ自動車フアンテロープス ●トヨタ紡織サンシャインラビッツ ●三菱電機コアラーズ ●アイシンウイングス ●大同特殊鋼 ●トヨタ車体	<b>三重県 3チーム</b> ●ヴィアティン三重 ●三重バイオレットアイリス ●Honda HEAT <b>滋賀県 6チーム</b> ●滋賀レイクスターズ ●東レアローズ ●Blue Sticks SHIGA ●日本精工 Brave Bearies ●ルネス紅葉スポーツセンター ●滋賀GOブラックス <b>京都府 5チーム</b> ●京都ハンナリーズ ●立命館ホリズ ●立命館ホリズ ●S Gホールディングス キャラックススターズ ●京都サンガF.C. <b>大阪府 17チーム</b> ●サントリーサンパース ●堺ブレイズ ●パナソニックバンパース ●きんでんトリニティープリッツ ●近畿クラブスフィーダ ●クボタスピアーズ ●アイシンテイルマール ●デンソーエアリービーズ ●トヨタ車体クインシーズ ●シーホース三河 ●名古屋ダイヤモンドドルフィンズ ●ファイティングイーグルス名古屋 ●三菱ネオフェニックス ●デンソーアイリス ●トヨタ自動車フアンテロープス ●トヨタ紡織サンシャインラビッツ ●三菱電機コアラーズ ●アイシンウイングス ●大同特殊鋼 ●トヨタ車体	<b>西宮ストークス</b> ●神戸製鋼コベルコスティーラーズ ●シオノギ製薬ホシノギヤルズ ●デウソン神戸 ●アサヒ飲料クラブチャレンジャーズ ●エレコム神戸ファイニース ●ヴィッセル神戸 ●NAC神戸レオネッサ ●兵庫ブレイバース <b>奈良県 5チーム</b> ●奈良ドリーマーズ ●バンビシヤス奈良 ●天理大学アース ●南都銀行 SHOOTING STARS ●南理大学アース <b>和歌山県 1チーム</b> ●和歌山ファイティングバーズ <b>中国・四国 24チーム</b> 鳥取県 1チーム ●ガイナレ鳥取 島根県 3チーム ●島根サノオマジック ●ルネス紅葉スポーツセンター ●鳥取レイクスターズ ●鳥取ブルーリッジ 岡山県 3チーム ●岡山シーガルズ ●平林金属 Peach Blossoms ●ファジーアール岡山 広島県 9チーム ●J Tサンダーズ ●大野石油広島オイラーズ ●広島ドラゴンフライズ ●清永製菓 ●イズミイブルックス ●コカ・コーラレッドスパークス ●広島エフ・ドウ ●サンフレッチェ広島 ●サンフレッチェ広島レジーナ 山口県 1チーム ●レノファ山口FC 徳島県 2チーム ●徳島ヴォルティス ●徳島インディゴソックス 香川県 3チーム ●香川ファイアアローズ ●カマタマーレ讃岐 ●香川オリーブガイナーズ 愛媛県 5チーム ●愛媛オレンジバイキングス	<b>伊予銀行VERTZ</b> ●愛媛FC ●FC今治 ●愛媛マンダリンパイレーツ <b>高知県 1チーム</b> ●高知ファイティングドッグス <b>九州・沖縄 27チーム</b> 福岡県 9チーム ●ライジングゼファー福岡 ●ゴールデンウルヴス福岡 ●宗像サニックスブルー ●takagi 北九州Water Wave ●ポルカバレット北九州 ●みらいふ福岡SUNS ●アビス福岡 ●キラヴァンズ北九州 ●福岡北九州フェニックス 佐賀県 4チーム ●久光ブリッツ ●ガイナレ鳥取 ●トヨタ紡織九州 ●サガン鳥栖 長崎県 1チーム ●V・ファーレン長崎 熊本県 5チーム ●フォレストリッツ熊本 ●熊本ヴォルターズ ●オムロン ●ロアッソ熊本 ●火の国サラマンドラーズ 大分県 4チーム ●大分三好フィアードラー ●バザジイ大分 ●大分トリニティ ●大分89INGスタ 宮崎県 1チーム ●テゲバジャーロ宮崎 鹿児島県 3チーム ●ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング ●MORI ALL WAVE KANOYA ●鹿児島ユナイテッドFC 沖縄県 4チーム ●琉球ゴールデンキングス ●琉球コソソ ●FC琉球 ●琉球ブルーオーシャンズ
---	--	--	---	--	--	---	--

## 3 プロアマスポーツチーム活用のポイント

コロナ禍以降更に、多くのチームが、運営の台所事情は概ね厳しく、運営スタッフも満足におらず、競技活動もカツカツで行っており、地域貢献活動への余裕が乏しい。意欲はあっても行動が伴わない状況が前提にあることを踏まえ、以下がポイントとして挙げられる。

**相手のチームの状況を理解する(競技活動以外に、どんな事を地域でしたいと思っているか?)**

ホームページやSNS、試合会場をチェック

**地域側のニーズと連携内容の整理**

スポーツチームにとって嬉しいことか? 地域での発展に貢献するか?

**事業化の検討(継続的な活動のための、ヒトモノカネの工面の手段も考える)**

初年度効果検証的な活動を行い事業計画を策定

アウトソーシング施策に特徴のある取組例

## アクティブシティのつくり方

/原田宗彦(大阪体育大学 学長)

### 1 まちをアクティブにするゲーミフィケーション

普段、スポーツや運動とは無縁の生活を送る人々を、アクティブな生活に誘うには、楽しさや面白さを組み込んだ「ゲーミフィケーション」が有効な手段となります。これは、ゲームの要素や仕組みを、他の分野に応用することですが、これをアクティブライフの促進に使うことができるのです。スポーツや運動に、ゲーム的な要素や機能を加え、興味を持たせ、楽しませ、アクティブにさせることで、無関心層を取り込むことが可能となります。

### 2 自治体におけるゲーミフィケーションの活用例

ゲーミフィケーションを応用したイベントやアプリは多く存在します。表1は、それらを「アナログ型」と「IT型」に分類し、さらに「まち歩き」と「スポーツ/レクリエーション」に細分化したものです。まずアナログ型ですが、地図をもとに時間内にチェックポイントを回って得点を集める「ロゲイニング」や、実際に街を歩いて謎を解いていく「謎解き」、そしてある一定のテーマに沿ってスタンプを集める「スタンプラリー」といったまち歩き系のイベントがあります。もうひとつは、ゴミ拾いをスポーツとして競う「スポーツゴミ拾い」、全国の自治体が一齐にスポーツ参加を競う「チャレンジデー」、そしてマラソンとピニックを組み合わせた「マラニック」といったスポーツ/レクリエーション系のイベントです。

IT型については、自治体のオリジナル製品である「独自開発」と、民間企業が開発した「プラットフォーム」の2種類です。独自開発については、「諏訪町まち歩きナビ」「防災まち歩き」「金沢謎旅オンライン」などのまち歩き系や、宮崎県の公式ウォーキングアプリである「SALCO」、そして三重県南伊勢町が開発したスマートフォン健康ポイントアプリである「プラスたいみ〜」のようなスポーツ/レクリエーション系があります。さらに、全国各地に仕掛けられた“クエスト”と呼ばれる場所で、クイズを解いて遊ぶスマートフォン向けウォークラリーの「まちクエスト」もあります。また、スポーツ/レクリエーションに関しては、ランナー向けSNSアプリの「ラントリップ」や、アプリを使った自転車イベントである「CYCLOG(シクログ)」などで、いずれも既成のプラットフォームを持っています<sup>4</sup>。

表1 ゲーミフィケーションを用いた地域のアクティブ化

類型		まち歩き	スポーツ/レクリエーション
アナログ型		<ul style="list-style-type: none"> <li>● フォトロゲイニング</li> <li>● 謎解き</li> <li>● スタンプラリー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スポーツゴミ拾い</li> <li>● チャレンジデー</li> <li>● マラニック</li> </ul>
IT型	独自開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 諏訪町まち歩きナビ</li> <li>● 防災まち歩き</li> <li>● 金沢謎旅オンライン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プラスたいみ〜(三重県)</li> <li>● SALCO(宮崎県)</li> <li>● Flo(オランダ)</li> </ul>
	プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Beat the Street(英国)</li> <li>● まちクエスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ラントリップ</li> <li>● CYCLOG/Getters</li> </ul>

4. 豊田章起、服部敦、岡本肇(2017)「ゲーミフィケーションによるまち歩きイベントの効果に関する研究」日本建築学会計画系論文集、第82巻、第734号を加筆修正

### 3 海外の事例

この中で興味深いのが、まち全体を巨大な遊び場に見立て、ウォーキング、ランニング、サイクリングによってまちを巡り、まちの歴史やコミュニティについて学ぶ英国生まれの参加型ゲーム、「Beat the Street」(街を闊歩しよう!)です。参加者は、事前に登録した「Beat the Streetカード」を使い、コミュニティ内の街灯に設置された「BeatBox」(ビートボックス)と呼ばれるセンサーにタッチすることで、ポイントや賞品を獲得することができます(写真1)。まちの中に配置された多くのビートボックスを巡ることで、人々の運動習慣の形成を促進することが期待される一方、屋外で行われる非接触型のゲームとして、コロナ禍における安全性も担保されているのです。



街灯に設置されたビートボックスにカードをかざしてポイントゲット  
<https://www.telegraph.co.uk/health-fitness/body/beat-street-game-helping-families-get-fitter-together/>

自転車専用道が縦横に張り巡らされているオランダの都市では、移動にかかるストレスを軽減するため、ユニークなシステムが開発された。それが「Flo」と呼ばれる縦長の表示です(写真2)。これは自転車走行時に、赤信号に捕まらないように速度調節を行うための装置であり、信号機の手前に設置されたスピードカメラを利用してライダーに速度を指示します。表示にはスピードアップを意味するウサギ、スピードダウンを意味する亀、そしてストップを意味する牛が表示され、それに従えば、スムーズな走行が可能になる仕組みです。



オランダの街中に設置されたFlo(亀が表示されている)  
<https://www.springwise.com/new-cycling-system-helps-riders-beat-red-lights/>





# Inner Policy

インナー施策に  
特徴のある取組例

# 地域内外の企業等の寄付による基金を 原資とした未来人材育成

## 北海道

人口規模:522万人  
地勢条件:寒冷、広域



### インナー施策

主なターゲット

地域の若い指導者人材

こんな自治体に  
オススメ!

人口減少社会において、  
優れた人的リソースを確  
保したい地域

## 取組の概要

近年訪日外国人や移住者が急増する北海道において、グローバル化に対応した世界で活躍できる人材の育成が急務であった。スポーツ等各種分野で意欲ある若者を発掘、育成するための基金を創設し、障がい者スポーツ指導、テニスの国際大会運営等スポーツを”刺支える”技術・能力を習得するための海外留学を支援した。



## 数値目標と達成度

育成人材数

スポーツコースで延**7名**が卒業。

## 効果・成果

帰国後の実績

**障がい者スポーツクラブの設立や、大規模スポーツ大会の主催**等の実績を着実に残している

## 規模・財源

独自の財源「ほっかいどう未来チャレンジ基金」を造成し、約70,000千円を積み立てている。1,000~2,000千円/人程度の範囲で支援しており、年間最大10人程度の支援を想定した予算組をしている。

## 取組のPOINT

独自の財源「ほっかいどう未来チャレンジ基金」を造成し、約70,000千円を積み立てている。1,000~2,000千円/人程度の範囲で支援しており、年間最大10人程度の支援を想定した予算組をしている。



学生コースで採用され、留学先でテニスの国際大会の開催ノウハウを学ぶ受講生



海外で障がい者スポーツ指導を学んだ卒業生が障がい者スポーツ団体を設立

## 担当者へ聞いた

### 成果の要因

広範囲に多数の人を対象とした支援事業ではないため、取組の知名度が上がりにくい事業であることから、制度説明会での卒業生を登用し体験談を高校生等次代の対象者に講演することで、取組の認知度向上と参加希望者の募集を図っている。



### 失敗談・苦慮した点

現業を退職・休職して応募してくるもののハードルが高く、事業趣旨(募集要項)に合致する人材の少ない。効果発現の即効性や具体性が対外的に示しにくく、寄付協力者等に成果を報告しにくい。

### 庁内体制

地域政策課(事業主体)  
スポーツ振興課(スポーツコースの審査)

### 庁外体制

各種応援パートナー(以下、一例)  
日糧製パン株式会社  
アサヒビール株式会社  
イオン北海道株式会社



# 地域内外の企業等の寄付による基金を 原資とした未来人材育成

## 宮城県 角田市

人口規模:2万人  
地勢条件:丘陵地帯、盆地  
関連資源:道の駅

### インナー施策

#### 主なターゲット

市民、近隣市町の住民、  
ファミリー層

こんな自治体に  
オススメ!

地域の産業振興や雇用  
創出にスポーツを活用し  
たい地域

### 取組の概要

体育施設での健康教室や周辺エリアをフィールドとしたウォーキングイベントで市民の日常的な運動習慣の定着を図るとともに、イベント参加ノベルティとして隣接する道の駅で使える商品券を景品としたくじ引きの参加券を配布するなど、道の駅への利用者の誘導及び購買の誘発に取り組み、体育施設利用者を道の駅に、道の駅利用者を体育施設に動線を促している。



### 数値目標と達成度

観光客数

214,347人(H26年)  
→1,039,374人(R1年)

### 効果・成果

道の駅  
利用客数

826,608人(R1)

### 規模・財源

地方創生推進交付金の活用を中心にプロジェクト全体を進め、部分的に企業版ふるさと納税の活用や、大学・財団との連携事業として進めているものもある。

### 取組のPOINT

- ①子連れファミリー層をターゲットにすることで、道の駅の課題であった平日の集客力不足の解消にもつながっている
- ②道の駅を目的とした来訪者が体育施設の存在を知ることにより、運動や健康の関心喚起にもつながっている



ウォーキングイベントの様子



市内の肥満児傾向が高いことから、天然芝を活用した幼児遊び場等、子どもの運動環境を提供

### 担当者に聞いた

#### 成果の要因

子どもをはじめとした地域住民のスポーツ実施の二極化に課題を抱えていたことから、スポーツに無関心な方でも、「お、なにかやってるな」と関心を持ってもらえるようなイベント展開や、スポーツが嫌い・苦手な子どもたちでも遊びたくなるような公園の設計やネーミングを意識したことで、スポーツのハードルを下げ誰でもスポーツにアクセスしやすい環境をと整えることができた。

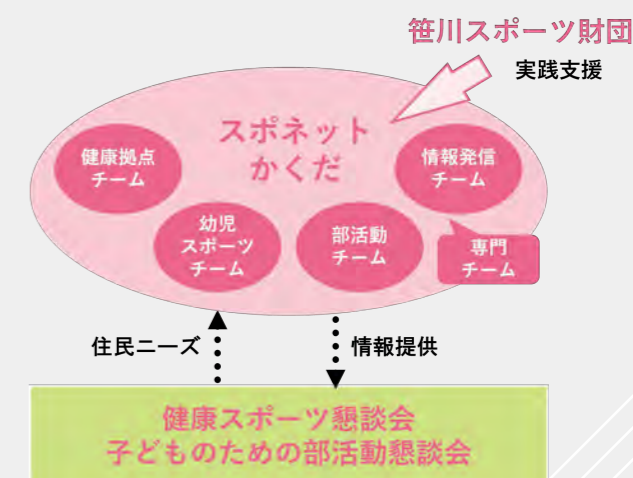
#### 失敗談・苦慮した点

事業の担い手となる組織の組成段階における座組の設定に悩んだ。

検討の結果、知見やノウハウの網羅性よりもフットワークの軽さを優先し、座組をコンパクトにしたことで円滑な事業推進につながった。



### 庁内体制



# ストリートカルチャーの浸透による

## 若者の地域定着

### 神奈川県 川崎市

人口規模:153万人  
 地勢条件:平地、多摩丘陵  
 関連資源:溝の口駅、  
 等々力競技場



#### インナー施策

##### 主なターゲット

市民、近隣市町の住民、  
 ファミリー層

こんな自治体に  
 オススメ!

文化として根付くスポーツを活かしシビックプライドの醸成を図りたい地域

#### 取組の概要

人口動向の堅調な地域であるものの、今後10年で減少に転じる推計となっており、若者の街として人口動態を維持していくための取組みが求められる中で、以前から地域に根付きつつあるプレイキンやダブルダッチ等ストリートカルチャーをより振興していくことでシビックプライドを醸成を図り、若者の地域への定着を図っている。



#### 数値目標と達成度

20~24歳  
 人口

84,833人 (H27) → 96,976人 (R2)

#### 効果・成果

川崎市を  
 魅力的だと感じる  
 若者の割合

10歳代が42.9%で最高 (R1年)  
 ※最も低いのは60歳代で34.8%

#### 規模・財源

イベント (ISF) は約20,000千円程度の事業費

#### 取組のPOINT

- ①文化としての経緯を重視しており、規制や誘導によりアーバンスポーツの自由さを損なわないような展開を心がけている
- ②若者以外にも地域の文化として浸透しつつあり、公共空間での活動に対するクレーム件数は減少している



INTERNATIONAL STREET FESTIVAL  
 KAWASAKI



体験会で更なる若い世代へ文化を継承

### 担当者へ聞いた

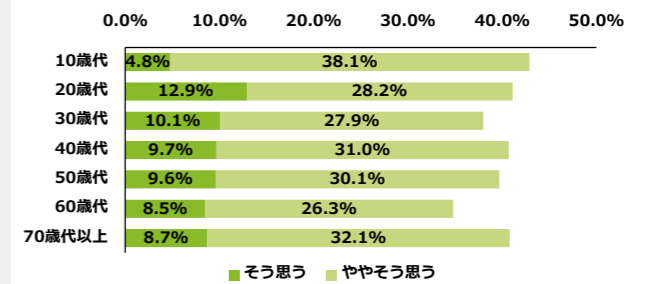
#### 成果の要因

ストリートでの若者の行動を単なる“スポーツ”として扱うのではなく、自発性や自由さそのものを重要な“文化”として尊重し、パークや施設を整備してそこへ促すのではなく、若者たちの活動を見守ったことが功を奏したと考えられる。



市庁舎建替時の  
 仮囲いミューラルアート

#### 川崎市を魅力的だと思う割合



令和元年度 川崎市総合計画に関する市民アンケート調査 報告書より

#### 庁内体制

市民スポーツ室  
 オリンピック・パラリンピック推進室  
 健康教育課

#### 庁外体制

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟  
 一般財団法人日本ジャンプロープ連合  
 川崎商工会議所  
 一般社団法人川崎市観光協会 /  
 川崎駅広域商店街連合会

## フェンシングをフックとした

## 地域におけるスポーツの習慣化

### 静岡県 沼津市

人口規模: 18万人  
地勢条件: 沿岸地域、温暖  
関連資源: オリンピアン



こんな自治体に  
オススメ!

地域住民のスポーツの習慣化や健康増進に取り組みたい地域

### インナー施策

主なターゲット

地域住民

### 取組の概要

”フェンシングのまち”として地域ブランドを形成し、本格的な競技としてのみならず、スマートフェンシング等レクリエーションとしての楽しみ方も普及させることで地域住民のスポーツの習慣化やシビックプライドの醸成につなげている。その他、対外的にもブランドを確立することで大規模な大会や合宿誘致にも取り組んでいる。

### 数値目標と達成度

市内競技人口

66人(R1)→100人(R2)

### 効果・成果

実施二ーズ

フェンシングをやってみたと思う市民の割合  
44.9% (最も高かった10代では66.6%)

### 規模・財源

企業版ふるさと納税や地方創生推進交付金を活用。  
地方創生推進交付金約20百万円を活用し、フェンシングの魅力を伝える動画作成、体験会や学校訪問の実施、健康・体力づくりとの連携などによりフェンシングの普及啓発を推進するとともに、国際大会での活躍を応援される選手の育成、競技者と地元企業が連携したオリジナルグッズ等の考案・製品化などを図っている。

### 取組のPOINT

ハイレベルな合宿や大会の誘致により、トップ選手の存在を身近に感じられ競技の普及啓発や動機付けにつながっている



拠点施設 F3BASE での指導風景



市長と太田前会長

### 担当者に聞いた

#### 成果の要因

合宿誘致には、市街地から離れた所より便利な駅近くが適しているとアドバイスを受け、物件の新規建設ではなく既存物件から対象場所を見つけた。また、運営を協議会が主体で行ったことにより意志決定が迅速になり、オリンピック前の合宿誘致に間に合わせたことが成功要因と考えられる。

#### 失敗談・苦慮した点

日本フェンシング協会からの協力を得るため、本気度を理解してもらうまでに時間を要した。市長が東京まで出向き、当時の日本フェンシング協会の会長とトップ会談を行い、協力を得るに至った。

#### 庁内体制

ウィズスポーツ課  
健康づくり課

#### 庁外体制

フェンシングのまち沼津推進協議会  
日本フェンシング協会  
日本フェンシング協会と包括連携協定が締結でき、協会の方針とも合致したため、トップクラスの指導者を市の職員として招いた。



# 「ホッケーを通じて若者が帰ってくる町」へ

## 滋賀県 米原市

人口規模:3万人  
 地勢条件:湖岸、豪雪  
 関連資源:琵琶湖、伊吹山、中山道、道の駅



### インナー施策

主なターゲット

地域のホッケー競技者

こんな自治体に  
 オススメ!

文化として根付くスポーツを  
 活かしシビックプライドの醸成を図りたい地域

### 取組の概要

1981年のびわこ国体でホッケー会場となったことをきっかけに「ホッケーのまち」として地域に根付いており、国内でも有数の競技者人口を誇るが、高校までホッケーに親しんでも、県外の大学に進学するとそのまま地元に戻らないケースが多く、人口流出してしまっている。そこで県内に設立されたプロホッケーチームの選手やOBを市内の企業で雇用するなどして、Uターンしやすい環境を整えている。

### 数値目標と達成度

30歳代の社会増減 ▲35人(H26年)→55人(H29年)

### 効果・成果

Uターン受入基盤 地域企業でのUターン者雇用

### 規模・財源

地方創生推進交付金を活用。

### 取組のPOINT

Uターンによる社会増への寄与のみならず、米原市ホッケー協会が開催するホッケー教室を通じてホッケーを体験することで遠方からスポーツ少年団に通う子どもも増加傾向にある。



専門学校でスポーツ医療を学ぶ学生



多目的グラウンド

### 担当者へ聞いた

### 成果の要因

3年ほど前に認知度が低かった近江前原地域をターゲットに、米原市ホッケー協会にホッケー教室を委託する普及事業を行い、その教室での体験を通じて遠方から近江前原地区のスポーツ少年団に入る子が増える等、現状把握の分析結果を活かしアクションに移すというPDCAがうまく回せている。



### 庁内体制

- スポーツ推進課
- 政策推進課
- 米原近江地域協働課
- 商工観光課

### 庁外体制

- 日本ホッケー協会
- ブルースティックス



# スポーツ×健康づくり×地域づくり

## 滋賀県 愛荘町

人口規模: 2万人  
 地勢条件: 田園地域、平地  
 関連資源: 金剛輪寺(湖東三山)、  
 愛知川びん細工てまり、  
 愛知川宿(中山道)



### インナー施策

主なターゲット

地域の高齢者

こんな自治体に  
 オススメ!

地域住民のスポーツの習  
 慣化や健康増進に取り組  
 みたい地域

### 取組の概要

スポーツと健康づくりをキーワードに高齢者をはじめとする幅広い世代が健康づくりや生きがいづくり、地域づくりに取り組むことで交流人口や定住人口の増加を促し、住みたいまち、訪れたいまちの形成を目指している。



### 数値目標と達成度

教室登録者

141人(R3年)→162人(R3年)

効果・成果

要介護者の数

13.5%(H30年)→12.8%(R3年)

規模・財源

### 取組のPOINT

愛荘町オリジナル体操のDVD化や指導者マニュアル、リーフレットの作成等、イベントがなくても各自で取り組めるための基盤づくりを進めている。



地域のゆるキャラも参加する  
 体操の振り付けDVD



運動だけでなく食事面からも健康をサポート

### 担当者へ聞いた

#### 成果の要因

教室への自宅から教室会場までの送迎サービス(登録制)を行い、参加しやすい環境を整えることで登録者数が増加した。



#### 失敗談・苦慮した点

男性の参加率が低いため、健康面だけでなく、ゲーム性やこれまで技術力を披露する場など男性が盛り上がる仕掛けの検討。

#### 庁内体制

生涯学習課  
 みらい創生課  
 子ども支援課  
 健康推進課

#### 庁外体制

地域連携交流センターを中心に、愛荘町で行う健康体操を、地域住民の健康づくりや地域づくりを支援されている健康推進員や生活・介護支援サポーターと、聖泉大学人間学部、看護学部の学生と教員が共同開発